

第 80 回日本民族衛生学会総会開催にあたって

大会長 中路重之

日本民族衛生学会総会を 16 年振りに青森県（弘前市）で開催させていただくこととなりました。大変光栄に存じます。この 16 年間に、新幹線が青森市に乗り入れ、弘前の街も近代化し、弘前大学もほぼ建て変わりました。めまぐるしい時の流れに感慨すら覚えます。

前回の弘前大会では先代の菅原和夫教授（当時衛生学講座）が大会長、私が番頭の役目をつとめさせていただきました。「小ぶりの学会だが非常に討論が活発」だというのが正直な私の感想です。とくに、総会前日の幹事会の議論白熱には驚きました。

今、青森県では短命県返上の機運がこれまでにないくらいに高まっております。ここ 20 年くらい都道府県別平均寿命ランキングで男女とも青森県は最下位を継続中だからです。2010 年には同じりんご王国の長野県が男女とも最長寿県に上り詰めました。“リンゴ一個は医者をおとぎ話になってしまいました。

短命県返上は、青森県民の健康度を向上させるということにほかなりません。しかし、そこまでの道程は短くもなく平坦でもありません。人の寿命（健康）の背景には、長い時間に根ざした文化、気質、教育、経済、生活があります。残念ながら私たちの目はその根本に充分切り込めていません。この種の研究には“民族衛生的視点”が不可欠だと感じる瞬間です。

というわけで総会の柱に“短命県返上”を据えさせていただきました。ご参加の皆様にも青森県の取り組みをお聞きいただき、なんらかのご助言をいただけたら幸甚です。

11 月の青森は晩秋を過ぎ初冬の趣ですが、風光明媚な青森県は十和田湖はもとより、温泉群、津軽三味線（民謡）、各所の紅葉、岩木山、白神山地、三内丸山遺跡、太宰治の生家など多くの名所名勝を有しております。懇親会の美酒を大いにお楽しみいただきたく存じます。